

サトリの
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗本蔵寺住職
馬場玄翔さん

第47回

私は日蓮宗大本山池上本門寺で2年間修行した後、本門寺の山務員となりました。本門寺には野球部や合唱団、ボーイスカウトなど、子どもたちを対象としたさまざまな活動があり、私はそれらの活動のサポートを担当。そこでボーイスカウトのキャンプに参加したことが、私とボーイスカウトの出会いでした。

その後、千葉県市川市の弘法寺の山務員となり、「これからは子どもたちへの仏教的教育も行わなければいけない」という住職の発案のもと、ボーイスカウトを立ち上げ

ることに。私はいろいろな研修を受け、小学校2〜5年生を対象とした「カブスカウト」の隊長となりました。そして1999年、日本ボーイスカウト市川第8団を発団しました。

スカウト活動によって信仰心 高め、奉仕の心も育てます

ボーイスカウトの活動においては「奉仕の心」と「信仰の心」、この2つの心を育てることが基本理念となります。信仰といっても特定の宗教に属するわけではなく、「もったいない」「命を大事にする」といった基本的なことを教えていきます。その教育の一環として、ボーイスカウトには「スカウトオウエン」という取り組みがあります。キャンプのとき、朝や夕方にみんなの前で宗教的な話をするので、隊長が話すこともあれば、子どもたちが感じたことを発表することもあります。こうして少しずつ信仰心を高めることが、感謝や奉仕の心も育てていくのです。

いろいろな体験を通して 「感動する」ことが成長に

2004年に先代住職が亡くなり、私は実家である東京・江戸川区の本蔵寺に戻ること。市川でのボーイスカウトを続けることがむずかしくなったため隊長を辞め、現在は副団長を務めています。

そんな私が隊長だったころ、子どもたちに常に話していたのは



自ら発団に携わり、カブスカウト隊長も務めた日本ボーイスカウト市川第8団。現在は副団長としてサポートしている。

「良いことをして、悪いことをしない」ということでした。これは「諸悪莫作 諸善奉行」というお釈迦様の言葉、簡単に聞こえますが、それができないからこそ悩みが生まれたり、事件が起きたりするのです。悪いこと1犯罪だけではありません。人に迷惑をかけることや不快な思いをさせることもしてはいけません。そして、いつも他の人のため力になれる。これを実践することこそボーイスカウトだと私は思っています。

ボーイスカウトは子どもが主役。野外での活動や遊びを通して、いろいろな経験ができます。ときには辛いことがあって泣いてしまうこともあるでしょう。でもそれらの経験が、子どもを育てる一番のエネルギーになるのです。

子どもたちが喜び、感動できるような活動に導くのが私たち指導者の役目。感動することは人間特有のものであり、人格形成にとって大事な要素です。子どもたちにはいろいろなものに感動しながら成長してほしいと願っています。



「良いことをして、
悪いことをしない」を
実践することが大事

ばば・げんしろう 1965年生まれ、東京都出身。1988年、大東文化大学外国語学部卒業後、立正大学にて僧階単位を取得。1997年より千葉県夷隅郡大多喜町にある常徳寺住職に。2004年に東京都江戸川区の本蔵寺住職となる。現在は常徳寺の住職代務も兼任。日蓮宗声明師。2002年より日蓮宗スカウト連絡協議会事務局長。2007年より保護司としても活動中。